

# 同和問題に接したとき、 あなたは どうしますか？

自分の能力や人柄に関係なく、その地域に住んでいる、出身ということだけで差別を受けることがある日本固有の同和問題。令和元年(2019)7月に豊中市が実施した「人権についての市民意識調査」では、同和地区に対する差別(部落差別)意識がいまだに残っていることが浮き彫りになりました。

日頃は見えにくい差別意識も、引っ越しや結婚など人生を選択する場面で、行動として表れることがあります。今回は、具体的な場面を通し、登場人物を自分に置き換えて考えてみましょう。

## 「憧れの大学生生活、1人暮らしの始まり」



大学進学が決まり、物件を探しに行くとき…

エピソード①



### 解説

### インターネットの情報をうのみにしないで



とよなか人権文化  
まちづくり協会  
重本洋輔さん

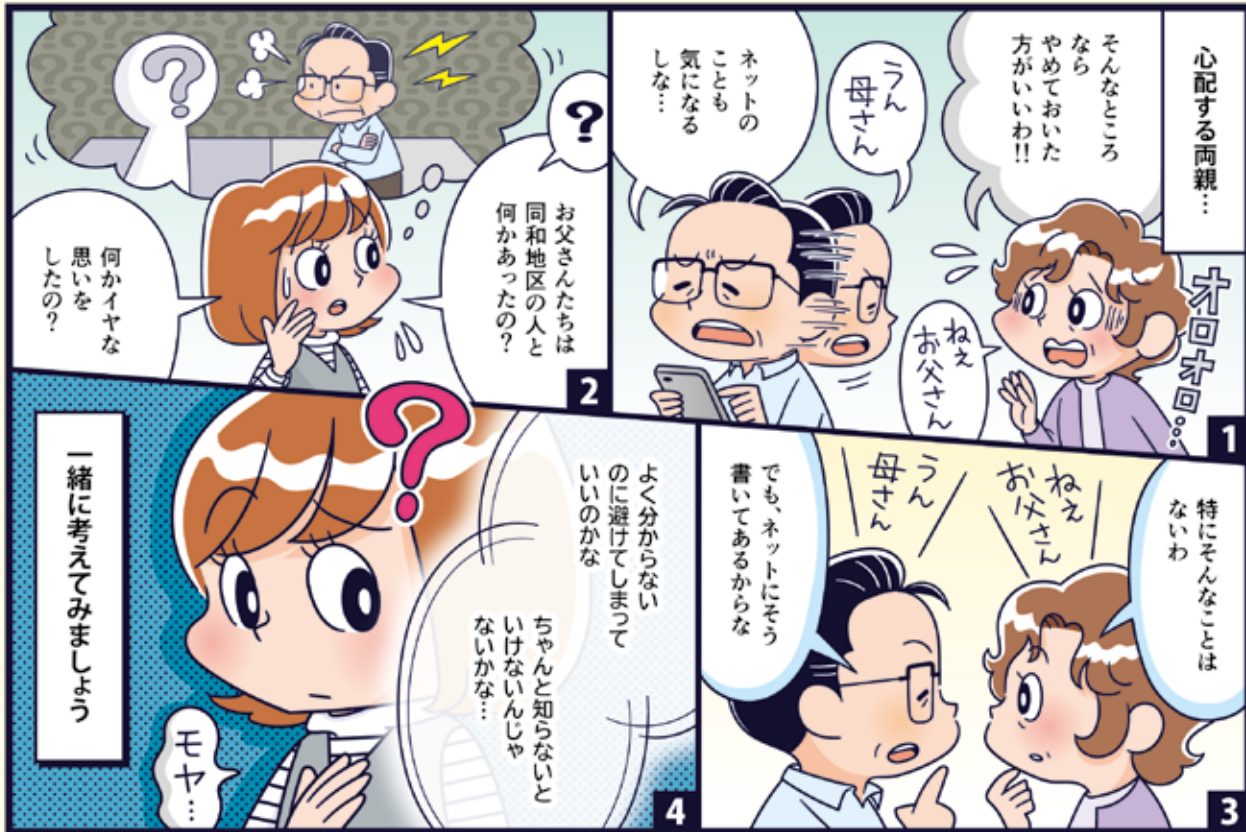
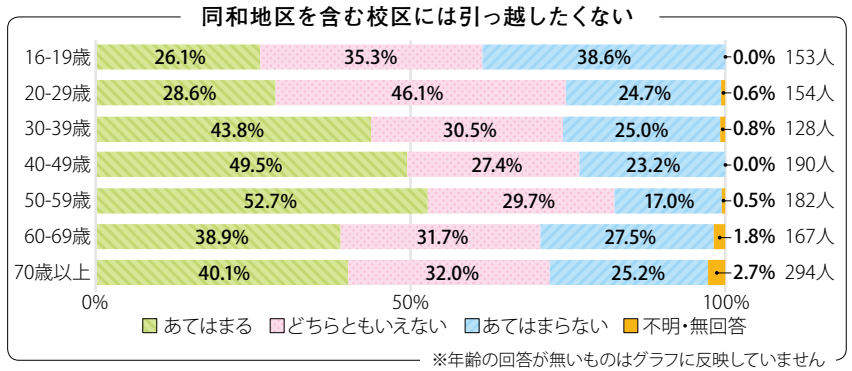
この漫画のようにインターネット上では、同和地区に対するマイナスイメージの情報が掲載されており、中には、誤った情報や差別的な情報を意図的に拡散しようとしているサイトもあります。

同和問題は「知らない人にならざり教える必要はない」「そつとしておけば自然に差別はなくなる」といった意見もあります。が、きちんと知っておかないと、誤った情報や差別的な情報に接した時、漫画のお父さんのようにうのみにしてしまうかもしれません。

とよなか人権文化まちづくり協会では、同和問題をテーマにした講演会の開催やパネル展示などを行い、同和問題の解決に向けて情報を発信しています。これらを通して正しい知識を得て、差別的な情報に流されない力を付けていただければと思います。

## 市民意識調査結果では…

人権や差別問題に対する見方や考え方について市在住の16歳以上の男女1,273人から回答を得ました。調査項目の中で「同和地区を含む校区には引っ越したくない」にあてはまると答えた人は、子育てや引っ越しを具体的に考える30代～50代で4割を超える結果となっています。意識調査の詳細は市公式ホームページでご覧いただけます。



突然直面した同和問題。よく分からない…でいいの？

## エピソード②

## 避けることは差別をすることと同じ

## 解説



とよなか人権文化まちづくり協会 秋山みさきさん

同和地区は他の町と違いはないにもかかわらず、市民意識調査の結果から分かるように今も「避ける」という差別意識が皆さんの中に残っています。ここに同和問題の根深さが存在しています。

同和問題は同和地区だけにありませんが、同和地区からは離れて暮らしていても、そこにルーツを持つ人が皆さんの身近にいるかもしれません。そう考えると同和問題は決して遠くの出来事ではないのです。同和地区を避けたり、差別的な考えをうのみにしたりすることで、身近な人を傷つけているかもしれません。自分が避けることで避けられ、差別を受ける人がいることに気付くことが大切です。

皆さんにも漫画の主人公のように、立ち止まって疑問に思うことから、同和問題を考えてもらいたいです。



## ひゅうまんプラザ（講演会）の案内

【日時】2月19日(金)14時～16時  
 【場所】中央公民館(曾根東町)  
 【内容】絵本作家・中川洋典さんによる「僕は絵本の中で初めて出会った～絵本の取材で見た食肉業と差別～」

【対象】80人

【申し込み】電話で人権平和センター豊中 ☎6841-1313。ファクス可(催し名、参加希望人数、代表者の名前、電話番号を記入) ☎6841-1310、市ホームページからも申し込み可。先着順